

令和2年度 佐賀学園高等学校 学校評価

生徒一人一人が相互並びに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、建学の精神(「産業界の第一線に貢献する人材の育成」)と校訓(「創造」「躍動」「貢献」)を尊び、いかなる時流においても生き抜く力を身につけさせる教育を実践する。
2 学校経営ビジョン ①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す ②基本的生活習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。 ③生徒一人一人の学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。 ④部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。
3 本年度の重点目標 60数年にわたって築かれた伝統を継承するとともに、未来に向けて更なる学校の活性化を図る。そのために「生徒一人一人に寄り添い、伸ばす教育」の実践を行い、「人との絆」を大切にし社会で活躍する人材を育成するために、次の3点を重点目標に掲げ、「人づくり」のために邁進する。本年度のキャッチフレーズ「心をつなぎ未来を創る」を掲げ、多くの仲間や先生方との心の絆を大切にしながら、自分の未来＝夢に向かって、澁刺と勉強や部活動に打ち込み、昨日より今日、今日より明日と自らを高めていける生徒を育成していく。 ① 授業の充実 ・教職員が日々自己研鑽に努め、授業のねらいを定め、板書計画や発問等を準備した上で、分かる授業・生徒を惹き付ける授業を実践する。 ・宿題・課題の提出を日常的に行い、家庭学習の習慣化を図る。 ・様々な資格取得の推進を図ること、生徒を意欲的な学習に向かわせる。 ・電子黒板等を活用した授業実践を広くしていく。 ・定期考査の成績と共に授業態度を重視した評価を行う。 ② 部活動の強化 ・部活動加入率を向上させ、部活動生徒を普段の学校生活の核になる人物に育てていく。 ・本年度中に、運動部・文化部含め、5部以上が県レベルで1度は優勝することを目指し、全国大会においてもベスト8以上に匹敵する活躍を目指す。 ・生徒会活動の更なる充実を図り、生徒が主体的に取り組める領域を広げる。 ③ 自主自律と人思いやる心の育成 ・進路意識を高め、自らの将来をデザインし、夢や目標にひたむきに向かう姿勢を育む。 ・挨拶・服装・礼儀について、年度当初にしっかり教育を徹底して行い、規範意識の醸成を図る。 ・人思いやり、お互いを認め合う学校風土を醸成する。 ・生徒の心に響く話をホームルームや個人面談で行い、落ち着いた生活態度、さわやかな言動を身に付けさせることで地域社会の信頼を得る。 ・SNSを使ったコミュニケーションの危険性を認識させ、トラブルの未然防止に努める。 ・清掃活動を重視し、教室の整理整頓、校舎全体の環境整備に努める。

4 前年度の成果と課題 ○ 電子黒板を活用した研究授業が多く実施され、教職員の授業改善への意識が高まったのはよかった。本年度は、授業のねらい、板書計画(電子黒板の活用含む)、鍵になる発問の明確化・絞込み(演習等に係る明確な指示)をすべての教職員が意識し、生徒たちの学力(技能)向上に努めることが大切である。 ○ 学校生活全般にわたり、教職員が前向きに、そして生徒に寄り添った指導をしていた。マナー指導、部活動の充実などの面では特に成果が見られた。吹奏楽、バレー男子、野球など常に全国レベルを意識して活動している部も多く、本校の部活動面は充実している。生徒会は学校行事など主体的に運営し、ボランティアも積極的に行っていた。また、県の商業技術競技会ビジネス情報部門で優勝するなど、商業系部活動も充実してきた。 ○ 生徒指導では特に大きな問題はなかったものの、SNS利用上のモラルやトラブル防止など、まだまだ指導すべき点も多い。ただ、問題行動や教育相談に関わり、外部機関(少年サポートセンター、児童相談所など)との連携を図り、解決・改善できた事例が複数あったのは収穫だった。 ○ 成績高等部と部活動の連絡・連携などは以前より密になってきた。しかし、まだ教科内の協働態勢や校務分掌を超えた連携、則ち職員間のチームワークがまだ充分ではないことから、その点を改善できれば、業務の充実・効率化、学校運営の充実につながっていくものと考えている。

5 総括表	領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方法	評価	成果と課題
学校経営	学校経営方針		・本年度の重点目標を生徒・保護者に周知することができたか。 ・職員が重点目標「授業」「部活動」「心の教育」を意識し、学校の更なる活性化に向けて取り組めたか。	・生徒・保護者が、重点目標を「よく知っている」「知っている」割合を昨年度以上にする。(昨年度生徒27.1%、保護者24.0%) ・重点目標の取り組みについて、生徒・保護者が「非常に良い」「良い」の評価を昨年度以上にする。(昨年度生徒46.2%、保護者59.3%) ・重点目標に従い、職員個々が自ら研鑽を積み資質向上に努めたか。 ・重点目標に従い、各分掌等で主体的に取り組む、他の分掌等との連携を図りながら、具体的な目標が実現について取り組む姿勢ができたか。	・全校集会、振興会総会、学校通信で、本年度のキャッチフレーズや重点目標を生徒・保護者に伝える。 ・校長は、部長や学年主任に対して、随時、進捗状況を踏まえ目標達成に向けた取り組みを促す。その際、校長自ら判断・指示すること、部長・学年主任でグリップし主体的に取り組むこと、そのスタンスを常に意識する。 ・校長は、授業見学をとおした職員との面談の機会を増やす。校内初任者研修を実施し、若手職員の育成体制をつくる。 ・校長は、できるだけ部活動の日常の練習を視察する。 ・進路指導部を中心に、長期休業期間について、生徒の能力・適性・進路希望に応じた補習等が実施し、部活動とバランスを図る体制をとる。 ・生徒指導部や教育相談部においては、外部機関との連携を強化し、有識者の意見を取り入れていく体制をつくる。 ・生徒の学校(教室)復帰を促すため、教育相談と学年主任・担任との連携を強化する。 ・学校の教育活動をフンベーパーで表せるような資料を考える。 ・分掌・学年が決めた目標達成に向けて部長・学年へのアドバースを頻繁に行う。 ・職員研修の機会を増やす。また、授業見学を行い、職員との面談の機会を多くもつ。	B	・重点目標の「知っている」「よく知っている」の生徒の割合は昨年より大きく減ってしまった(昨年度27.1%→本年度16.9%)。年度当初に休校措置を取ったことなどにより、学校の指針を浸透させることはできなかった。 ・重点目標に「授業の充実」「部活動の強化」「自主自律と人思いやる心の育成」という3本を掲げたが、「授業の充実」については、生徒の意識も教職員の意欲と工夫などの点から、よい方向に改善された。特に教職員の電子黒板活用についてはかなり普及した。ただし、本年度、少数ではあるが、他者への優しさや思いやりに欠ける行動、言動をとった生徒がいたことは残念であった。 ・部長・学年主任が学校活性化や指導改善に向けて主体的に取り組む意欲はかなり出てきたと思われる。しかし、まだ分掌間の連携、部活動と教科指導のバランスに課題は残る。 ・長期休業中の学力向上に向けた特課及び習熟度の低い生徒への補習などにおいて、本校としてのスタイルができてつづめるのは収穫だった。 ・生徒指導や教育相談の面において、外部との連携を図り、生徒の改善を図る態勢はできてきた。但し、教育相談室にいる生徒の中には怠学傾向の生徒もあり、教育相談室利用のルールづくりが必要となっている。 ・学校の教育活動をフンベーパーで記したGrandデザインの実策については、コロナへの対応等で時間を割けなかった。 ・本年度から開始した初任者研修については一定の成果を挙げたと思う。但し、職員が外部に研修に行く機会が少なかった。
	学校運営	生徒募集 (広報活動)	・本校のセールスポイントを中学生及びその保護者、中学校に正しく伝えられたか。 ・本校の取り組み姿勢に共感していただけたか。 ・受験者増加につながる募集活動が、全職員、学校をあげて行えたか。	・受験者数の前年度比110%、推薦・専願入学者数200名(推薦130名、専願70名)を目標とする。 ・パンフ、チラシ、パワーポイント、DVDで本校の良さを認知させ、親近感を持たせる。	・募集関連事業の実行委員会を設け、共有と協働を基本に「選んでもらえる」斬新な戦略を練る。 ・検定取得実績、進路実績、基礎・基本を重視した教育プログラム、活発な部活動の実績をアピールする。 ・中学生の情報収集活動を行い、勧誘体制を強化する。 ・国の就学支援金制度、本校の優遇制度を周知するとともに有効活用する。	B	志願者が、前年比150名強は想定以上の結果であった。優遇制度は、中学校への周知が徹底しており、希望者が安定してきた。説明会やOS等の事業への参加依頼を強化し、進学・就職、部活動等の実績を押し、本校への興味・監視を集める工夫をする。
		学校事務	・県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。	・各自が接遇に対する意識を高め、学校来訪者や架電者とのスムーズなコミュニケーションを図る。 ・担当者が不在時のサポート体制構築を目指す。	・気持ちの良い挨拶や学校に相応しい服装、正しい敬語表現等について事務職員同士で意識し合い、励行する。 ・担当者が休業時等を利用し、業務のフォローを実施する。	B	・来訪者への挨拶、学校に相応しい身だしなみについては励行できている。 ・正しい敬語使用については、更なる意識付けが必要である。 ・一部業務で担当替えを実施した。今後も事務室内のサポート体制を強化していく。
		職員の指導力向上	・社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。	・校内の研修会や佐賀県教育センターの専門講座や公開講座に参加することにより指導力の向上を図る。 ・研究授業や公開授業を通して、授業の質の向上を図る。	・職員研修会を各校務分掌で企画する。 ・教育センターの研修講座に3年間で1回以上年間15名以上参加する。 ・各教科で所定数の研究授業を実施する。 ・学期当初の1週間を公開授業週間とし、授業参観をオープンにする。 ・各教科会で日々の実践を振り返り、授業改善につなげる。 ・教科指導、進路指導、生徒指導などの領域で先進的な取り組みをしている学校を訪問する。	B	・コロナ禍により各種研修会が中止となったが、各教科工夫をし研究授業を行った。 ・授業の質の向上を図る。
教育活動		学力向上	・基礎知識と技能の習得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか	・「規律ある授業」の確立と生徒の興味関心につながる「分る授業」を展開する。 ・家庭学習を習慣化し、基礎学力を定着させる。 ・それぞれの進路に対応した個別指導を充実させる。	・学習規律を身に付けさせる。 ・各教科会を機能させ「分る授業」のための手立てを研究し、共通理解のもとで実践する。 ・日常的に課題を課し、評価する。	B	電子黒板を積極的に利用することができた。 電子黒板と板書を工夫し、よりわかる授業の実践を行う。
		進路指導	・各学年における進路ガイダンス等がキャリア教育に活かされ、進路意識が具体的に行動に反映されたか。 ・進路を実現できるための基礎学力がついたか。 ・生徒の覚悟のある進路実現に繋がったか。	・就職については内定率100%と進学については国公立・有名私立大学合格者数の増加(特に公募制の学校推薦型選抜の合格)を目指す。 ・受験に対応した学力と校内学力判定テストや基礎力診断テストによる学習力(GTZ)の向上を図る。 ・進路指導講話や、外部教育力を生かした進路意識の向上を図る。	・長期休業中に大学進学希望者に対するセミナーの開講と課題による実力錬成や基礎学力向上のための1対1補習の実施により、学力の定着を目指す。 ・3年生の進学希望者に対し各教科担当者に小論文や学科試験対策の個別指導、就職希望者を含む放課後学習会を実施する。また、3学年団、全職員で協力して面接や提出書類作成の指導を行う。 ・進路調査、適性検査、FINE SYSTEMなどの活用により客観的データを分析、検討し具体的な進路指導につなげ、三者面談等でミスマッチのない進路指導につなげる。 ・新規企業開拓や企業との良好な関係性の継続のための企業訪問と卒業生の現状把握に努める。	A	・就職については、就職試験での内定率は予想以上に高かった半面、就職希望者で就活を行えない生徒が多かった。そのような生徒に対する進路指導の在り方について考える必要あり。 ・進学については、大学進学希望者の割合が10%増加した中、超難関大を含む国公立大学6名をはじめ、有名私立大学合格者数の増加、また書・情報処理科の生徒は推薦、総合選抜、一般入試で大学進学を目指した生徒はすべて合格できた。 ・入試制度の大幅変更で不安はあったが、コロナの影響で就職試験が1か月遅れて開始されたことや部活動が例年に比べできなかったぶん、進路決定に向けて生徒も担任も余裕を持って準備ができた。部活動が従来通りに実施できるようになると、受験対策や準備を早期から行うことを学年団、進路で意識し指導にあたる。 ・成績高等部の国公立大学を一般入試で受験する生徒数が増えたことはよかったが、中堅となる生徒の指導が進学実績につながる。国公立大学や福大などの推薦入試での受験をもっと研究、活用していく必要がある。
		生徒指導	・制服は正しく着用できているか。 ・交通ルール・マナーは守られているか。 ・挨拶返事は元気よくできているか。 ・他人に対する思いやり的心を持っているか。	・制服を正しく着用する。 ・いつでもどこでもマナーアップの意識を持つ。 ・他人・仲間誰ともコミュニケーションを図り豊かな人間性を目指す。 ・SNSによるトラブルがないように注意する。SNSの利用については、23時から6時まで控えさせる。	・型にこだわる指導と並行して内面的な指導を加えていく。 ・交通安全に対する意識向上と生命の大切さを認識させる。事故0を目指す ・生活習慣の向上を意識させる。 ・SNS利用ルールを守り、不必要な使用を控えさせる。	A	多様化する諸問題において、個別指導や事後支援など連携を図りながらチーム対応ができた。 各自の生活習慣に対する更なる向上を細かく支援していきたい。
		環境美化	・清掃が隅々まで行き届いているか。 ・ゴミの分別収集ができたか。	・清掃場所による格差をなくす。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。 ・職員の校内美化意識を向上させる。	・美化コンクールなどを実施する。 ・ゴミ袋の記名を徹底する。 ・全員清掃の時間を設ける。 ・清掃用具の管理を徹底し、清掃する環境を整える。	B	・ごみの分別の習慣もあまりなく昨年より向上した。 ・美化コンクールが毎年実施できて良かったと思う。 ・業者ワックスの効果もあり各教室の美化意識は高まってきたが、教室外の清掃場所によっては差があるようだ。
		課外活動	・仲間と切磋琢磨し、社会性や強い精神力を磨き、人間性を高めることができたか。	・部活動加入率70%を目指して、担任・顧問との連携を密にし、各部活の部員数を増加させる。	・文武両道が実践できるように部活動のみならず授業にも真刺に取り組ませる。	B	・部活動加入率は前年と変わらず横ばい傾向にある。加入率70%以上を目標にするには多様な部が必要になると考えられる為、未加入生徒をボランティア活動など別の取り組みで活き活きと生活できる環境を整えたい。 ・素晴らしい実績を挙げている部活が多く、部員・顧問が一体となった充実した活動が展開されている。
特定課題	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応		・学級担任・学年主任・教科担当者・管理職・カウンセラー・教育相談担当職員と保護者との連携を図り、生徒への対応が充分に行われ、学校又は教室への復帰がなされたか。 ・教育相談室登校の生徒への学習指導と適切な評価が行われたか。	・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校・学級への関心を持ち所属学級へ戻るようにサポートする。 ・教育相談室での学習や学校行事に積極的に取り組める環境づくりを行い、生徒に達成感や満足感を味あわせるよう指導する。	・職員の連携を密にし、保護者との連携を図り生徒をサポートする。 ・カウンセリングを充実させ心の安定を図り、スムーズに所属学級に戻れるようにサポートする。 ・学級担任・教科担当者と連携を図り、教材の準備や個別指導を充実させ、学力の向上を図る。 ・Q-Uを活用し生徒が安心して過ごせる学級作りを行うためのサポートを行う。	B	・1年生の相談室利用が例年に比べ少なく学年・学級の対応がよかったと思われるが、相談室登校にも至らなかつたケースもある。 ・保護者のSCの利用も多く、生徒への家庭での対応の相談が好転へ繋がったものもあった。 ・進路予定・課題表を毎月作成したことで、生徒の取り組みや教科担当者からの指導も向上した。 ・教室復帰については課題が残る。学級や学年からの働きかけと相談室からの背中押しを続けることが必要である。
	礼法教育		・コミュニケーションの基本である挨拶や質問の意味を正しく汲み取り、状況に応じた受け答えができるか。	・進路決定や立ち振る舞いのために日頃からマナー向上を目的とする。	・机上学習や礼法検定等を通し体得させる。	B	・3年生は礼法検定を行い進路の大変役立ったが、1、2年生はカリキュラムの変更で総合的な探究の時間となったので検定は実施しなかった。
	生徒会活動		・校内外の問題を自分たちで考え行動し、社会性の向上を図れたか。	・学級活動や各種委員会活動を活発に行い、学校全体のマナーアップを図る。 ・地域行事やボランティアへの参加を通し社会貢献を果たす。	・生徒会での議論の場を増やし、関連分掌・学年・学級との連携を図る。	B	・コロナ禍で活動自体が減少する中、校内で取り組める事などコロナに配慮した活動ができた。これをきっかけにいろいろな目標から校内外の問題を自分たちで考え改善するきっかけとなった。
	キャリア教育・L・L		・毎日のL・Lの内容を理解させて基礎学力を身につけさせることができたか。 ・キャリアデザインタイムを通して、自分の適性をみつけ進路選択をできたか。	・L・L及び基礎力診断テストを活用することでGTZの値がD2ゾーン以上の学力に向上させることを目標とする。 ・面接やガイダンス、諸検査を通して自己を知り、日常の自己表現力や礼儀作法を身につけることを目標とする。	・L・Lをより良い活用方法を常に研究して生徒の学習のフォローアップを図る。確認テストや基礎力診断テストを分析して学力向上につなげる。 ・担任や進路指導の面接、面談を進路保障に結びつけることができるように指導内容の充実を図る。	C	・L・Lについては、教科によって難易度にはばらつきがあり、年度途中での問題修正や見直しがあった。実践の方法についてさらなる検討が必要である。反復練習が定着しつつあり、学習に向かう姿勢と取り組み状況は良くなってきたと思う。 ・基礎力診断テストはD3ゾーンのままの生徒が多く、基礎力の定着を図ることができていない。L・Lの学習と合わせて基礎学力の向上を図る必要がある。

6 総合評価 ・本校のPR材料である部活動については、コロナの影響により、全国大会等の中止が相次いだが、その状況にあっても、バレー部男子、剣道部女子、吹奏楽部が輝きを放ってくれた。 ・進路実現の点ではかなりの成果が出せたと思う。国公立大学の合格者増、看護学科等の医療関係への進学、佐賀銀行等事務職への就職などをはじめいい結果をのこした。 ・重点目標とした「授業の充実」の面では、電子黒板導入の効果もあり、職員の指導力は確実に向上し、生徒の授業態度もかなり改善された。しかし、「自主自律と人思いやる心の育成」については課題を残した。

7 次年度への課題・改善策 ・野球、バレー、吹奏楽、剣道、水泳、サッカーなど県の上位及び全国大会出場を目指す部活動については更にその充実を図り、県外からの招請も積極的に行う。 ・進路指導の充実・国公立大学をはじめとして大学等進学者を更に増やすために、小論文指導・面接指導など推薦入試対策を充実し、成績高等部を中心に共通テスト対策を充実させる。 ・教職員の更なる授業力向上を図り、上位層の生徒を伸ばすこと併せて基礎学力の充実を図る。L・Lの効果的運用、部活動とのバランスをとった上での長期休みの補習の充実を図る。 ・令和4年度からのタブレット導入に向けて、速やかに活用できるよう、できる教職員から積極的にタブレットを活用した授業を実施する。 ・人権尊重や豊かな心の育成という観点からの教育活動の充実を図る。 ・不登校傾向の生徒の学級復帰支援や、生徒が人間関係を築き調整する力を育成するよう支援する。 ・図書館利活用の促進を図り、自習室としての活用、文芸同好会の起上げ、更に読書活動を進め朝の読書を定着させる。 ・学年主任主導で、総合的な探究の時間(「キャリアデザインタイム」)の充実を図る。
--